

## 第4回産業厚生常任委員会 会議記録

日 時	開会	令和4年8月4日(木) 午前10時00分				
	休憩	11:01~11:10				
	閉会	令和4年8月4日(木) 午後0時23分				
会議場所	オンライン (Zoom)					
出席委員	副委員長	櫻井 あけみ (自宅等)		委員	佐々木 健 佑 (自宅等)	
	委員	小暮 千秋 (自宅等)		委員	須田 修一郎 (自宅等)	
	委員	山内 浩 彰 (自宅等)				
欠席委員	委員長	宮内 知 英				
参 考 人						
傍聴者数	一 般 者	名	報道関係者	名	議 員	名
事務局職員	事務局長 平田 和司		議事係長 竹川 彰哲			
<p>産業厚生常任委員会を開催したので下記により記録する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. 道内所管事務調査のまとめと取扱い等について (説明者：説明・提案内容)</p> <p>櫻井：今回実施した道内所管事務調査について、本日は、委員長欠席のため副委員長により進めるが、山内委員は調査に出席されていないことから、各委員から各調査の概要と合わせて振り返りを行い、それを基に委員会の報告書をまとめて議長へ提出したい。</p> <p>それに加えて、子育て支援医療費還元について、委員会としては重要な事業と考えることから、この取り組みの実施に向けて、今後、委員会としてどのように取り扱っていくかについて、皆さんからご意見をいただきたい。</p> <p>また、委員会報告書とは別に委員個々の報告書についても、8月5日までに提出をお願いする。</p> <p>(具体的な議論事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道内所管事務調査のまとめと取扱い等について、協議し決定する。</li> </ul> <p>(決定事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道内所管事務調査の報告書については、各委員から出された振り返りを基に、副委員長において委員会の報告書をまとめた上で、議長へ提出することとした。</li> <li>・子育て支援医療費還元について、委員会として重要な事業だという共通認識にたったことから、次期は別としても、斜里町で実施するとした場合、どういう課題があるのかを明らかにするために担当課を呼んで、委員会を開催することとした。</li> <li>・調査日程は8月23日、24日のいずれかを予定。担当課(民生部と産業部)の都合の良い日程で調整することとした。</li> </ul>						

(振り返りで出された主な意見)

○標茶町

佐々木) コンビニ受診を控えることや町内の域内循環、過疎債の活用がポイントであった。金券の発行額が1,100万円から1,200万円のうち、町の持ち出しが3割。過疎債を活用し、お金をかけずにできるのではないかと。

小 暮) 子育て支援策として効果が高い。町内経済や域内循環への効果もあり一石二鳥だと思う。以前、町からできない理由として、財政面が上げられていたが、過疎債を活用することで心配いのではないかと。優先順位と言われていたが、次に優先すべきはここだと思う。

須 田) 町内にある事業者のうち、9割が加盟しているのには驚いた。高齢者世代などから不公平さを持たれないか心配したが、そのような声はないということで、子育てと経済循環に好影響が出ている、過疎債を順当しているのでは、できないことはないと思う。

櫻 井) 商品券は、既存のものを使っている。カードのように機械も使わないので手数料もない。町内に浸透していくうちに、大手(町外資本の)のスーパーでも使えようになっている。

○弟子屈町

佐々木) 大まかなものは標茶町と同じ。財源を考えれば過疎債は有利。域内循環。弟子屈町の対象者は高校生までだが、分かりやすさで言えば高校生でも良い。

小 暮) 子育て支援が大きく、経済は後からついてくるという捉えだったので、もったいないと思った。域内循環につなげることでメリットが生きてくると思う。大手のお店で使えると便利にはなるが、町内の活性化になるのかなとも思った。町長が少子化に危機感を持っているのが印象的だった。

須 田) 課題にあるとおり、月末の集計が複雑というのが気になった。

櫻 井) 帰庁後、この部分を直接問い合わせてみたが、難しいのは高額療養費等の部分であった。

○別海町

須 田) 24時間預けることで安心して仕事ができる満足感、信頼感。これができればベストだと思う。

佐々木) 過去10年の実績からいくと、職員数が一定ということで成果に現れていると思う。しかし、委託料が全て一般会計から繰り入れということ、なぜ病院だけという声が一部からあるということなので、丁寧な説明が必要だと感じた。

小 暮) 病院職員の職場環境の改善と離職率の低下ということで、大きな効果があると感じた。実体を聞くと未満児保育が主であり、3才以上になると他の園との併用だった。普通の保育園や幼稚園では対応できない土日・祝日・夜間の保育は、昼夜で仕事がある病院職場では必要だと感じた。

斜里町では、未満児保育の受け入れが出来ずに待機児童がいる状況。病院職員の子どもが入ることで保育園の受け入れ枠が広がるだろうが、年にもよると思う。

委託先が保育士確保まで担っており、施設整備や運営費を考えると、町民に理解されるかどうかとも思う。

櫻 井) 看護師が安心して仕事ができるところにメリットがある。これがあることで、子どもがいる看護師も通常シフトの勤務体制が可能になる。斜里町では、子どもがいる家庭だと、土日祝日や夜間に預ける所がないので、人数の割にシフトで入るのがストレスになるという声もある。

別海町では、未満児の待機児童はゼロであった。

話がそれるが、いただいた資料の議会だよりに、ふるさと納税が去年の16倍になったという記事があった。昨年ふるさと納税の専門部署を作り、専門職員を配置したとのこと。

#### ○厚岸町

佐々木) テナントが入っていない。テナントがないと金銭的に考えて難しくなる部分もあるだろうが、全体でコンセプトに合った運営ができる、明確なブランドイメージをつくれたのがポイントだと思う。

須 田) 普通なら宿泊も一緒に考える所だが、食を核としたまちづくりということで面白みを感じたし、釧路町、浜中町、標津町とタイアップしていることなど連携の必要性を感じた。比べると、斜里町は宿泊があるので、食べる、触れ合うところに向かってもいいのかなと思う。

小 暮) 道の駅の食事メニューが豊富なので、何度も行きたくなる楽しみがある施設だと感じた。厚岸と言えばカキ、サケは日本一だが、じゃあ斜里と言えば何か。強力なインパクトがあるのは強みだと思う。

生産物、出荷物はあるが、観光客が喜ぶメニュー開発が、これまでも行われてきていると思うが、独自のブランド戦略があればいいと感じた。

櫻 井) コンキリエは、三つの食べ物屋がある。今回、話を聞くまではそれぞれテナントが入ってやっていると思っていたが、全て同じ会社でやっている。

これでテナントを入れると、どこも生ガキだとかカキフライ食べられます、になりがち。トータルのコンセプトを発揮して魅力を倍増している。一つのを展開するときには、このようなことも必要だと感じた。

#### ○標津町

須 田) チョウザメの指パク体験など、様々な工夫を凝らしていることがうかがえた。指定管理料は年間4千万円程度で、入館料収入が2600万円ですべて運営できているということでは、最小の経費で最大の効果という意味では、良いと思う。対応いただいた館長さんは本当に好きでやっているという印象を受けた。ああいう人でないと成り立たないのかとも思った。斜里町も、幅の広い観光産業を考えていかなければならないのかなと感じた。

佐々木) 大学または大学生との共同研究をやっており、若い世代、町外との交流、移住定住へ広がるきっかけになると感じた。

サーモン科学館は、観光、教育機関、研究と、より広い役割を持たせた施設になっているので、そのような考えも、参考にすべきポイントかなと感じた。

小 暮) 観光と漁業の連携というところでは、斜里町で養殖を進める時に、シロザケでは難しいと

ということで雑種であればという話だった。斜里町と言えば〇〇サクみたいなことが確立されてくると、すごくいいと思った。

櫻 井) うちの町の産業的な部分で活路を見出すために、昨年から生け簀で養殖事業をやっているが、もしも標津町のような施設と斜里町の連携がはかられれば良かったのではないかなと思った。

産業と密着させているという部分では、知床自然センターも何度かリニューアルしているが、ダイナビジョンの上映と自然の情報発信となっていたが、知床全般の自然に関する展示、知床博物館のような特別展をやっているが、もう少しすみ分け、何となく似たようなものが二つあるような感じなのでもったいない。逆にもう少し幅広くというのであれば、それぞれ専門性を明確に打ち出した展開が必要だと思う。

## 2. その他

### 1) 知床遊覧船事故に対する委員会での取り組みについて

(説明者：説明・提案内容)

櫻 井) 議長から委員長へ、知床遊覧船事故に対して、産業厚生常任委員会で取り組むか否か協議してほしいという話があったと聞いています。この事故原因等に関して、7月に国土交通省からの中間報告があり、委員会としてもこの件について調査をして、9月定例会議の中で、意見書だとか一般質問を委員会としてほしいというのが趣旨です。

直近の委員長会議の中では、事故に関しての特別委員会を設置するだとか、事故のことに調査するのは、産業厚生常任委員会としてはふさわしくないという意見を出していたし、このことについて取り上げるかどうかは決まっていなかったという話を、この委員会の前に宮内委員長と話しました。

その上で委員長の考えを伺ったところ、事故に関して議会や委員会で取り上げることはないとおっしゃられました。私からは、国の許認可制度等に関してということであれば総務文教も関わるのではないかと思います。関わるとしても議会や委員会で今回の事故の原因究明だとか、今後の事故防止のための国土交通省の許認可制度の在り方だとかを調査する内容ではないと思うのですがどうでしょうかと言うと、委員長も同様の考えでした。ただし、今回の事故の件で、知床の今後の安全対応は船だけのものではないので、全体を見直していく動きも必要だと思うし、行政は6月定例会議で出されていたアクティビティリスク管理の事業を始めるということで、議会としてはこれをしっかり見て行くべき。今回の所管調査で見てきた内容として、幅広い観光という点で「食」があり、自然体験だけに頼らない、産業と連携した観光が必要になるのではないかとこのを見てきましたということをお伝えすると、委員長は、そのような方向で良いのではないかとこのことでした。そこで、委員会として、今回の事故に関しての調査というのは、委員長は必要ないということで、私も同様に必要ないと思うのですが、皆さんの意見をお伺いします。

(具体的な議論事項)

・知床遊覧船事故に対する委員会での取り組みについて、協議し決定する。

(決定事項)

- ・知床遊覧船事故の原因究明や今後の事故防止のための許認可制度など、委員会としての取り組みは行わないこととした。
- ・委員会としては、第1回委員会で確認されたテーマのとおり、知床遊覧船事故後の知床観光について、調査を進めていくこととした。

(主な意見)

小 暮) 事故の対応について、斜里町でどうこうというのは難しいのではないかと。

第1回の産業厚生常任委員会において、委員会テーマとして、観光船事故後の知床観光をどうしていったらいいかという視点で取り組むことが確認されていたと思う。

事故によるダメージというのは、冷え込んだ町内産業への町としてできることというのは、これからの対応だと思うので、9月定例会議までに何かできるのかは疑問。

須 田) 委員会では、事故の影響による産業の減退について取り組むということだった。法的にとこののであれば産業厚生ではない。国土交通省や海上保安庁となれば幅広く、取り組めるとは思えない。

佐々木) 宮内委員長と櫻井副委員長が話をし、そのような考えということを知ったので、他の委員の意見も総合して、進めていくのでいいと思う。

山 内) 国交省の中間報告を見ているが、議会として何ができるかというところ、この事故の件に関して法的な部分だとか、制度、全体的な地域ごとの観光船の在り方だとかについては、議会としてそぐわない話なのかなと思う。

ただし、この事故によって、斜里町にどのような影響があるのか、地元自治体として、何とかしてこの事故を防げなかったのかという検証はやらなければいけないのかなと思う。

第1回の委員会で決まった、観光船の事故に関しての委員会としての取り組み、考え方でいいと思う。

櫻 井) 宮内委員長から預かっていた知床遊覧船事故に対する委員会での取り組みに関しては、皆さん同様の意見でしたので、委員会では今後、第1回委員会で確認された内容で進めていきたいと考えている。

また、6月の時点では、アクティビティリスク管理の事業に関して、内容はまだ何も決まっていなかったの、その進捗などについても、今後の委員会で確認した上で、委員会の中で、もっと事業者の声を聞いた方がいいだとか、こういったことをやった方がいいだとかになってくれば提言という形へ持っていくなど、知床観光についてはやっていきたいと考えているが、どうでしょうか。

→了

(質疑等)

特になし。

資料：なし

音声データ：04 [音声] 220804\_第4回産厚委員会

映像データ：05 [映像] 220804\_第4回産厚委員会